

出版に寄せて

服部豊子さんの半生は二つの世界にまたがります。

日本で生まれ育ち、音楽大学でヴァイオリンを学び、演奏活動を活発に行い、皇室にもご進講を行われました。1977(昭和52)年に、ご主人の服部成三郎氏とご令息お二人とともにウィーンに移り住まわれました。

本書では、服部豊子さんの日本での半生と同志である音楽家との稀有な邂逅について、そして服部豊子さんがウィーンでの暮らしを望まれた背景について詳述されておられます。楽友協会とも親交が深く、1000回以上はウィーンで音楽会を鑑賞されているはずです。服部豊子さんは、真に音楽を愛する人であり、ハットリ・ファウンデーション(Hattori Foundation)を通じて、若手音楽家の育成を支援しておられます。

Dr. Thomas Angyan
Intendant der
Gesellschaft der Musikfreunde in Wien

楽友協会総監督
トーマス・アンギャン



[目次]

出版に寄せて……………楽友協会総監督 トーマス・アンギャン (1)
編集注記……………(7)

第1章……………音楽との出会い

1…私の家族……………2

祖父母、父母のこと……………2
父と母のきょうだい……………8

2…朝鮮京城時代……………14

父の朝鮮赴任の事情……………14
勝ち気な「とんたん」……………15
松峴洞の社宅に移る……………17
西大門小学校へ入学……………19
京城での生活……………20
クラシック音楽と日本舞踊……………22
京城師範付属小学校に転入学……………23
遥かなる京城……………24
父の死……………26
いま思う父のこと……………28

3…東京での暮らし……………32

遠距離通学……………32
ヴァイオリンとの出会い……………34
バレエ……………37

私の自転車修業	38
和光学園での楽しかった日々	38
女子学院入学	40
読書と西洋志向	44
東京弦楽団に入団	47

第2章 太平洋戦争と音楽活動

1 太平洋戦争が始まる

1941年12月8日 日米開戦	50
日本音楽コンクール出場	52
様々な人の応援	53
戦時中の音楽	56
齋藤秀雄氏との出会い	58
深夜に聴いた《死と乙女》	59
敗戦をつげる玉音放送	61

2 戦後

戦後の風景	62
戦後の演奏活動	65
東京弦楽四重奏団	66
ソロ・リサイタル	70
姉美代子の病死	71
室内楽かソロ活動か	73
モギレフスキー先生の教育	75
音楽生活の刷新	80
メニューインの来日、モギレフスキーの死	84
女子学院でのコンサート	86
伯父の官邸に滞在	89
初めての生徒ホリデン君	91

ガリアーノを手に入れる……………	93
中村琢二さん夫妻のこと……………	95
ヨーロッパで勉強したい……………	97
魚住マネージャーのバックアップ……………	100

3…記憶に残る音楽家たち……………102

忘れがたいピアニストたち……………	102
忘れがたいヴァイオリニストたち……………	103
日本の音楽界に貢献した外国人音楽家たち……………	104
齋藤秀雄氏と桐朋学園音楽科の誕生……………	105

第3章…………ヨーロッパへの音楽留学

1…ヨーロッパへの旅立ち……………110

出発の日……………	110
コペンハーゲン……………	110
ストックホルム……………	111
西ベルリン……………	112
ヨーロッパ各地への旅……………	114

2…ウィーンでの留学生活……………115

いよいよウィーンへ到着……………	115
リカルド・オドノボソフ教授……………	118
修道院でのクリスマス……………	122
ヴァレス夫人ことムッティーとの暮らし……………	123
EXPO……………	126
ザルツブルク・ニース夏期講習会参加……………	128
スキーやスケートを楽しむ……………	130
ウィーンの舞踏会……………	131
ウィーン留学中に交流のあった友人たち……………	133

田中路子、デ・コーヴァ夫妻との思い出	138
ヨーロッパでのコンサート活動	140
ウィーンで聴いたコンサート	145
ヴァイオリンのヴィルトゥオーゾたち	146
自動車で6000キロの夏	151
私のウィーン留学三年間について	154
帰国	156

第4章……帰国後の新たな音楽活動

1…演奏活動の一新……160

新たな生活のはじまり——家の整理	160
帰国後のコンサート	161
教員として(桐朋教授・藝大講師)	163
成三郎との出会い	166
結婚と住まい	168
光一郎誕生	171
義父との別れ	175
香淳皇后の思い出	177
成三郎とのヨーロッパ旅行	180
那須御用邸訪問	183
毎年の軽井沢	183
安川加壽子さんとの連続コンサート	185
安川加壽子さんの思い出	189

2…家族と音楽……192

譲二誕生	192
家族で世界旅行	194
演奏活動	198
ストラディヴァリウスの旅	201

伯父田中耕太郎の思い出	206
メニューインのこと	211
二度のヨーロッパ旅行	219
ドイツ貴族との交遊	223
ウィーンへ	224

第5章 ウィーンでの暮らし

1 ウィーンでの生活

ウィーン生活のはじまり	228
貴族の城館で	229
新学期はじまる	231
アルフレート・シュタール氏のレッスン	232
息子たちの学校生活	235
プリンツ・オイゲン通りへの転居	238
新しい住まいと「暮らし」について	241
休暇の思い出	243
息子たちの成長	246
ホームコンサート	249
今上天皇陛下ウィーンご訪問の思い出	252
久しぶりのステージ	254
名演の思い出	257
夫との別れ	261
ドヴォルザークの《新世界より》	265

2 新たな始まり

喫日協会の活動	271
エプソン・クラシックCD収録	273
若手音楽家の育成に向けて	275
上皇上皇后両陛下ウィーンご訪問の思い出	277

コラムの執筆と自著の出版	279
ウィーン・フィルと私	287
楽友協会、コンツェルトハウスとオペラハウス	290
ウィーンでの国際交流	295
息子たちのその後	298
3…最後に	303
あとがき	305
人名索引	306

編集注記

- ・本書は、2018(平成30)年にウィーンのアマテア出版社(Amalthea Verlag)からドイツ語で出版された*Musik im Herzen. Von Japan nach Wien – Mein Lebensweg*の原文にあたる。ただし、日本の読者向けに内容は改編している。
- ・欧文での人名や生年・没年については、原則初出の箇所のみ記した。
- ・編集作業において、表記の統一、校正・校閲等を行っているが、記載されているエピソードの内容については加筆・修正は行っていない。
- ・ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の楽団員の生没年等については、Christian Merlin (verf.) (2007) *Die Wiener Philharmoniker. Band 2: Die Musiker und Musikerinnen von 1842 bis heute*. Wien: Amalthea Verlag を参照した。
- ・巻末に人名索引を取録した。
- ・本書の図版(写真等)は、巻頭のトーマス・アンギャン氏との写真以外は全て著者個人の写真アルバム等から、著者の選択に基づき取録した。
- ・表紙(カバー)及び各章の中扉の楽譜は、著者の実兄である植野實氏が写したものの(本書79頁参照)。
- ・本文中の()内の情報は、著者と編者で相談をして挿入した。